

Tb5

31
MARCH
2009

Distribution survey report of the Tonami city vol.5

砺波市遺跡詳細分布調査報告5

—— 柳瀬・太田・中野 ——

2009年3月

富山県 砺波市教育委員会

序

砺波市は、富山県西部の砺波平野のほぼ中央部、大部分が庄川により形成された扇状地上に位置しています。将来の都市像を「庄川と散居に広がる健康フラワー都市」とし、まちづくりの基本理念を「花香り、水清く、風さわやかなまち 砺波」と定め、文化遺産である散村の保護・活用を図るとともに花・水・風をキーワードに自然との調和をもとめ、住民が安心して暮らせる住みよい都市をめざしています。

砺波市では、これまでに旧砺波市域全体を対象とした遺跡詳細分布調査は実施されておらず、平野部の大半が遺跡の希薄な地帯という印象を与えます。これまで偶発的な発見や地域的に特定種別の遺跡の表面調査はなされてきましたが、少ない情報をもとに地域の歴史的環境を語ることはできません。

また、砺波市は近年人口増加とともに開発行為が頻発しており、埋蔵文化財保護の必要性が日々強くなっております。現状のままでは埋蔵文化財行政を運営する上で弊害となりかねません。

旧庄川町では、すでに平成14年度から2ヵ年をかけて町内遺跡詳細分布調査が実施され、報告書が刊行されています。

そこで、国庫補助事業として7ヵ年計画で旧砺波市全域を対象とした遺跡詳細分布調査を実施する運びとなりました。

本分布調査の成果をまとめた本書が砺波市の地域史研究ならびに埋蔵文化財保護体制確立の一助となることを願ってやみません。

おわりに、調査の実施および報告書刊行にあたり、柳瀬・太田・中野地区各自治振興会および砺波市土地改良区、富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位に多大なるご援助・ご協力をいただきました。衷心より感謝申し上げます。

平成21年3月

砺波市教育委員会
教育長 館 俊 博

例 言

1. 本書は、砺波市教育委員会が国庫補助を受けて7ヵ年計画で実施している市内遺跡詳細分布調査事業の5年目（2008年度）の分布調査報告である。
2. 調査は、砺波市教育委員会が主体となり実施した。
3. 今年度調査は、砺波市柳瀬・太田・中野地区を対象とした。調査期間は次のとおりである。
現地調査 平成20年（2008）11月25日～平成20年12月12日
整理作業 平成20年（2008）12月13日～平成21年3月27日
4. 調査事務局は、砺波市教育委員会 文化財室に置き、学芸員野原大輔が調査事務を担当し、教育事務局 長戸田保が総括した。
調査事務局 砺波市教育委員会 教育事務局長 戸田 保
文化財室 室 長 清澤 康夫
同 文化財係長 竹村 和敏（平成20年9月30日まで）
平木 宏和（平成20年10月1日から）
調査担当者 同 学芸員（主任）野原 大輔
5. 現地調査にあたって、柳瀬・太田・中野地区の各自治振興会に多大なご協力・ご理解を得た。
6. 現地調査は、株式会社太陽測地社に委託して実施した。
7. 資料の整理、本書の編集・執筆は、調査担当者が行なった。また、遺物整理・図面作成には、千田友子・幡谷宏美（文化財室）が参加した。
8. 採集遺物および記録資料は、砺波市教育委員会が保管している。

目次

序 文 例 言 目 次

第 1 章	調査の沿革	1
1	地理的環境と遺跡の分布	1
2	調査に至る経緯	4
3	分布調査の計画	4
4	分布調査の方法	5
第 2 章	調査の成果	9
1	平成20年度調査区の概要	9
2	採集遺物	11
3	遺跡各説	17
	下中条遺跡、柳瀬遺跡、柳瀬久遠寺遺跡、 久泉大溝跡、久泉遺跡、太田北遺跡、太田遺跡	
第 3 章	まとめ	19

【参考文献】

表 目 次

- Tab.1 遺跡数の推移
- Tab.2 分布調査の年次計画
- Tab.3 採集遺物観察表
- Tab.4 中世石造物一覧
- Tab.5 採集遺物一覧（1）
- Tab.6 採集遺物一覧（2）
- Tab.7 調査遺跡一覧

図 版 目 次

- Fig.1 砺波平野の地形分類図
- Fig.2 埋蔵文化財包蔵地と地形分類図
- Fig.3 塊状耳飾
- Fig.4 踏査経路模式図
- Fig.5 砺波市分布調査範囲図
- Fig.6 調査区周辺の旧版地図
- Fig.7 採集遺物の時期別点数
- Fig.8 遺物実測図
- Fig.9 埋蔵文化財包蔵地と遺物採取地点

写真図版目次

- PL.1 空中写真（1）
- PL.2 空中写真（2）
- PL.3 調査写真（1）
- PL.4 調査写真（2）
- PL.5 調査写真（3）
- PL.6 遺物写真（1）
- PL.7 遺物写真（2）
- PL.8 遺物写真（3）
- PL.9 遺物写真（4）

第 1 章 調査の沿革

1 地理的環境と遺跡の分布

庄川扇状地 砺波市は大部分が東部を北流する庄川により形成された扇状地であり、東に旧扇状地右扇の芹谷野段丘、そして射水丘陵から連なる東別所新山山地を控える。庄川扇状地は県内の三大扇状地に数えられ、そのなかでも最大の規模を誇り、面積は 146 km² に及ぶ。庄川扇状地には、地理学上著名な散村 (Dispersed Settlement) が広がっており、長閑な田園空間を形成している。

庄川はかつて幾度となく河川変遷を繰り返し、近世に至り現河道に落ち着いた経緯がある。天正 13 年 (1585) の大地震によって、庄川町雄神橋付近の弁財天社辺りで千保川・中田川に分流された。現在の庄川が主流になるのは、近世初頭の承応年間 (1652 ~ 1655) 頃の柳瀬普請、続く寛文 10 年 (1670) にはじまる上流の松川除築堤工事を経てのことである。

氾濫原であった平野部は、旧河道が幾条も通り、地形の小起伏が多い。そのため遺跡の希薄な地帯として知られ、遺跡全体の 30% に過ぎない。縄文遺跡の分布は、扇頂部に中期中葉の拠点集落・松原遺跡があるが、段丘裾の東保石坂遺跡、徳万遺跡、扇央部の久泉遺跡などが散在する状況である。

弥生・古墳時代は社会基盤が稲作に移行し、生活圏が湧水帯に移動したため、集落は未発見である。わずかに平野東部の低位段丘上にある安川野武士 A 遺跡で弥生土器が採集されている。

東大寺領荘園 奈良時代になると 8 世紀中頃に東大寺領荘園が成立し、平野東部を中心に扇央部まで遺跡の分布域が拡大する。荘園本拠に近い久泉遺跡、秋元窪田島遺跡、徳万頼成遺跡、扇央部には小杉遺跡、千代遺跡、高道向島遺跡、宮村遺跡などが展開し、いずれの遺跡も地理学上でいう”マッド” (mud) 上に存在する。マッドは微高地・自然堤防上に発達した黒色有機質土の堆積域であり、河川氾濫の影響の少ない比較的安定した地形といえる。

般若野荘 中世になると東大寺領荘園の範囲を踏襲して徳大寺家領般若野荘が成立 (12 世紀中頃か) し、扇央部には油田条 (村) が文献にみえる。般若野荘では領家方の支配領域と目される位置に東保遺跡 (東保高池遺跡)、東保般若堂遺跡があり、周辺に秋元窪田島遺跡、久泉遺跡などがある。

芹谷野段丘 庄川の右岸には台地がひろがり、河川作用によって形成された河成 (河岸) 段丘が存在している。それらは低位段丘、中位段丘、高位段丘として分類することができる。庄川町庄から宮森までには低位段丘が存在しており、隆起扇状

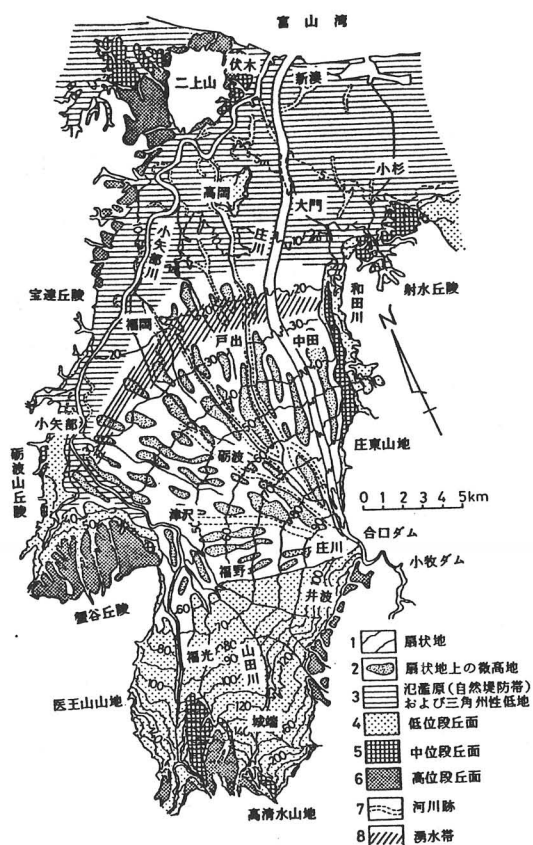


Fig.1 砺波平野の地形分類図 (神島利夫 1982)

地堆積物が形成されている。高位段丘にあたる芹谷野段丘（福岡段丘）は、旧扇状地の右扇の一部が残し段丘となったものである。南は安川付近から北は大門町串田付近まで約 10km に広がり、福岡の厳照寺周辺では海拔 80m を測る。芹谷野段丘上は、近世に庄川から芹谷野用水が引かれ、集落が展開した。

厳照寺遺跡 段丘縁辺部から丘陵裾にかけて縄文期の遺跡が多く、厳照寺遺跡、高沢島Ⅰ遺跡、高沢島Ⅱ遺跡、宮森新北島Ⅰ遺跡、上和田遺跡などが存在する。厳照寺遺跡は梅檀野築圃場整備事業に先立ち昭和 50・51 年に富山県によって調査が実施されている。竪穴住居跡 11 棟、埋甕 1 箇所、穴などが検出され、中期前葉の典型的な弧状集落であることが判明した。出土土器群は、「厳照寺Ⅰ式・Ⅱ式・Ⅲ式」として中期前葉の地域的な編年を確立した。

弥生時代は増山城跡で土器片が発見されており、古墳時代は高沢島Ⅲ遺跡で遺物包含層中から土師器を数点検出している。

梅檀野窯群 奈良時代になると東大寺領荘園に近接することから、須恵器の一大生産地となる。段丘・丘陵一帯にある須恵器窯を総じて梅檀野窯跡群と呼び、南北約 2.0km の範囲に窯が点在し、南の福山支群・北の増山支群に分けられる。増山支群の宮森窯と福山支群の安川天皇窯が最も古く 8 世紀第 2 四半期から中葉に位置付けられ、8 世紀第 3 四半期から第 4 四半期にかけて増山支群の増山亀田窯、増山団子地窯、増山妙覚寺坂窯が操業を始め、同時期には福山支群で福山窯、福山小堤窯、福山大堤窯が操業している。9 世紀前半に入ると、小丸山 1 号窯・2 号窯が操業され、9 世紀後半から 10 世紀にかけて正権寺後島窯、増山外貝喰山窯、増山笹山窯、東笹鎌野鎌が操業をし、以後梅檀野窯跡群では須恵器生産が衰退する。

庄東山地 芹谷野段丘の東、和田川の両岸には中位段丘が形成されており、和田川流域段丘帯をなしている。和田川は、牛岳の北西側山中に源を発し、庄東山地と芹谷野段丘の間を大きく蛇行し、池原付近で坪野川が合流する。流路延長 23.5km、庄川の支流である。昭和 43 年、和田川総合開発事業により和田川ダムが竣工、和田川は堰き止められて増山湖ができた。

和田川の右岸は、一般に庄東山地（音川山地）と呼称される範囲に含むことができ、富山県を東西に分断する射水丘陵帯の一枝群を成している。この山地は起伏量が少ない丘陵性小起伏山地であり、地質的には青井谷シルト質泥岩層の範囲に含まれる。南に位置する山地は標高 200m 余りを最高点として 100m 余りの小起伏山地で構成されている。この山地の西北に位置する天狗山（標高 192m）の北斜面、県民公園頼成の森の緩斜面丘陵は、南側山地からのかつての扇状地性堆積層で構成されている。表層地質としては、砂岩を主体とする下部と無層理青灰色泥岩を主体とする上部から成っている。

増山城跡 和田川右岸の丘陵上には、越中三大山城のひとつに数えられる増山城跡がある。南北朝時代の二宮阿軍忠状に「和田城」という城名がみえ、亀山城に比定する見方がある。室町時代から放生津城を本拠とする神保氏の支城となり、天正 4 年（1576）に上杉謙信に攻略され落城し、天正 9 年（1581）に織田方に焼き払われた。天正 11 年（1583）以降、越中統一を果した佐々成政の西の拠点となり、のちに前田方の手に渡り、城の守将となった中川光重が退老もしくは没した慶長年間まで存続したとされる。また、左岸には城下にあたる増山遺跡（増山城下町遺跡）が広がっている。

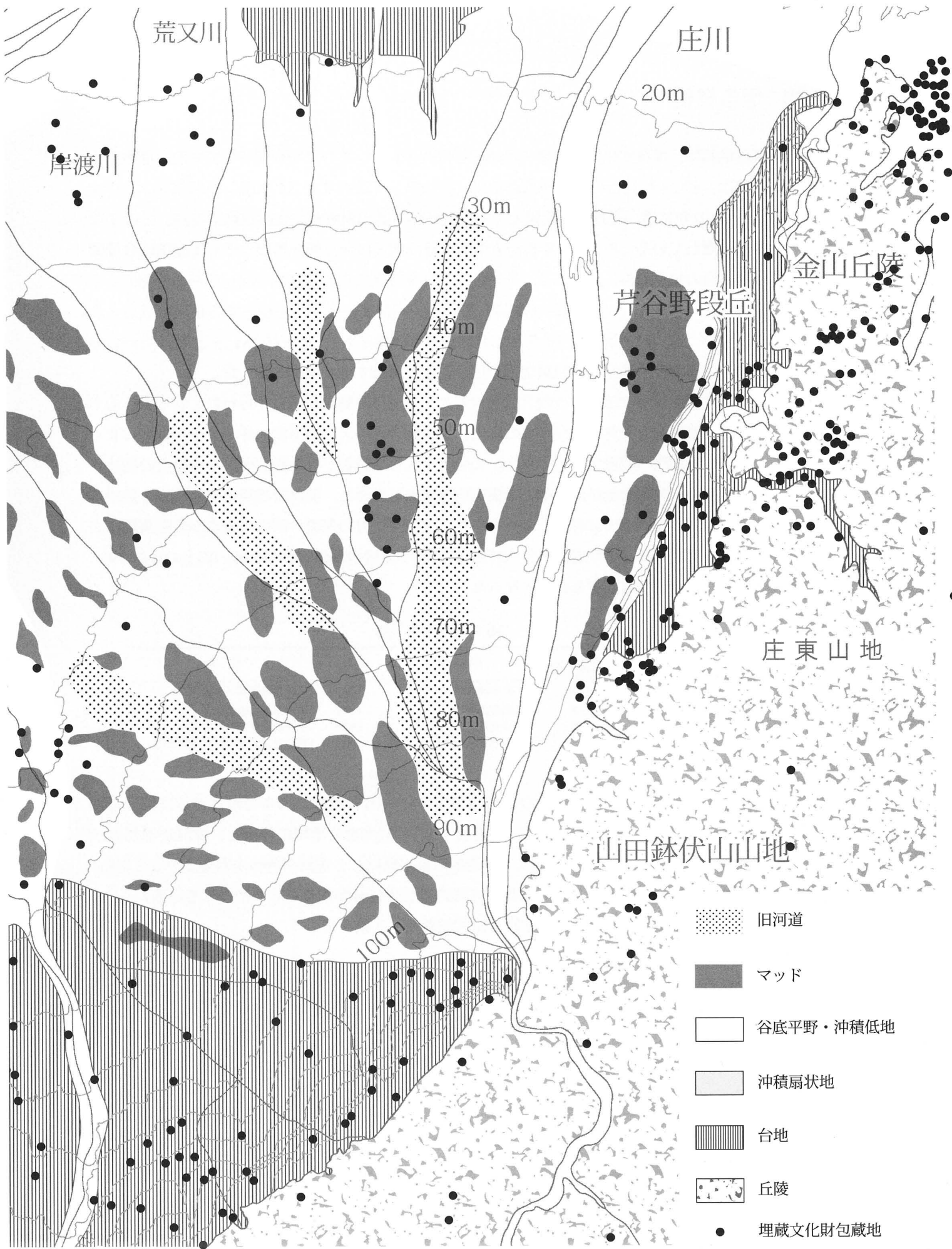


Fig.2 埋蔵文化財包蔵地と地形分類図 (Scale=1 / 75,000)

2 調査に至る経緯

沿革 遺跡地図は、埋蔵文化財の保護・周知化を目的として、これまで作成されてきた。砺波市内の遺跡は、1974年発行の『全国遺跡地図 富山県』ではわずか34遺跡しか確認されていないが、1993年に富山県埋蔵文化財センター発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』では112遺跡に急増している。昭和40年代からの高度経済成長に伴う開発増加、そして全国的な埋蔵文化財保護の気運高揚に起因する。その後『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』を基に加除修正を行っており、現在まで159遺跡を確認している。インターネットを核とする情報化社会への移行に伴い、富山県では平成16年度に「富山県GISサイト」(<http://wwwgis.pref.toyama.jp>)を開設し、最新の埋蔵文化財包蔵地地図を広く県民へ周知すべく環境を整えた。

これまで旧砺波市では、旧市内全域を対象とした遺跡詳細分布調査が行われておらず、土木工事による偶発的な発見や市民からの届出、国道敷設等の大規模事業に伴う分布調査等により埋蔵文化財包蔵地の把握に努めてきた。このようにして設定された範囲は決して精度の高いものとは言えず、開発照会がある度に事業用地を踏査してきた。開発行為等の事前協議を進める上で精度の高い遺跡地図は必要不可欠であり、埋蔵文化財の保護・活用の観点からも遺跡地図の充実は急務である。また遺跡の分布状況は、考古学研究の基礎資料である。以上の事由から、遺跡詳細分布調査を実施する運びとなった。

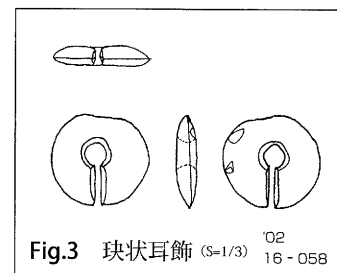
Tab.1 遺跡数の推移

遺 跡 数			発行機関	発行年	図 名
砺波市	旧砺波市	旧庄川町			
30	24	6	文化財保護委員会	1965	『全国遺跡地図(富山県)』
35	29	6	富山県教育委員会	1972	『富山県遺跡地図』
34	29	5	文化庁文化財保護部	1974	『全国遺跡地図 富山県』
112	98	14	富山県埋蔵文化財センター	1993	『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』

旧庄川町の分布調査 旧庄川町では国庫補助を受け、合併前の平成14～16年度の3カ年で町内遺跡詳細分布調査を実施している¹(現地調査2年、報告書1年)。町内を4地域に分割し、開発が予想される平野部に重点を置き調査が行われ、13遺跡の新規発見と2遺跡の台帳内容変更がなされた。採集遺物は463点を数え、約半数が庄川左岸の段丘上に分布することを把握している。

著名な金屋ポンポン野遺跡付近で縄文時代前期後葉・蛭ヶ森Ⅱ期の玦状耳飾(蛇紋岩製)を1点採集している。

¹ 庄川町教育委員会 2004 『富山県庄川町埋蔵文化財分布調査報告』



3 分布調査の計画

旧庄川町域を除く市内全域(96.33km²)を対象として、現地踏査を7カ年計画で実施する予定である(右表参照)。旧砺波市には、計17地区あり、踏査可能面積を考慮し各年度2～3地区ごとに調査を実施することにした。調査地区の設定は、開発行為が多く、埋蔵文化財包蔵地が希薄な地区を先行し、旧砺波市域の南西から北西部、中央部を縦断し庄川を越えて東部、段丘上・山間部という計画を策定した。

Tab.2 分布調査の年次計画

調査年度	年次	調査地区	面積 (km ²)
平成 16 年度 (2004)	1 年次	鷹栖、東野尻、五鹿屋	14.43
平成 17 年度 (2005)	2 年次	出町、若林	9.26
平成 18 年度 (2006)	3 年次	林、高波	10.88
平成 19 年度 (2007)	4 年次	庄下、油田、南般若	11.08
平成 20 年度 (2008)	5 年次	柳瀬、太田、中野	13.22
平成 21 年度 (2009)	6 年次	般若、東般若	13.53
平成 22 年度 (2010)	7 年次	梅檀野、梅檀山	23.91
			96.33

4 分布調査の方法

踏査の方法 考古学的調査として、地表面の踏査を行い遺物採集に努め、遺構・遺物の広がりや分布状況を把握する手がかりとした。砺波市の平野部は大部分が庄川扇状地によって形成され、大小河川の氾濫が現在の地形状況を生んでおり、古代以前の遺跡立地に大きく反映するという特性がある。遺跡分布と地形状況は表裏一体の関係にあるといっても過言ではない。しかし、旧砺波市では昭和 30 年代後半から県内に先駆けて大規模な圃場整備が行われており、本年度調査区もすでに整備完工されている。かつての景観は失われ、本来の地形的微起伏を確認することはできない。同時に多くの遺跡も保存されることなく破壊された可能性が高い。

そこで、近年の地形改変とこれまでの踏査経験から、遺物の表面採集自体が困難と予想されるため、「なるべく多くの目で多くの遺物を採集すること」と調査の迅速化を目的として、富山大学考古学研究室の院生・学生の協力を得て、下の模式図のように踏査経路をとることにした。扇状地上の圃場整備後の水田は、大型機械導入のため 1 区画 30 a (短辺 30 ~ 40 m × 長辺 100m) の規格を持ち、水廻り効率から短辺が磁北 (流路方向) もしくは南東→北西に設定されている。1 班 5 名の体制で 1 区画の踏査にあたり、横並びに短辺方向に沿って歩くことを基本とした。水田畦畔には積年の耕作の結果、遺物が集積する可能性が高いことから、各調査員はできる限り畦畔を踏査経路に組み入れることに努めた。

遺物の扱い 採集遺物は番号を振り、洗浄・注記・接合・実測作業を行った。注記表現は、「砺波市分布調査 5 年次 (Tonamishi-Bunputyosa 5)」から、「TB - 5」とした。現地踏査では、携帯が簡単なゼンリン住宅地図 2000 (株式会社ゼンリン北陸) にその場でプロットし、踏査後に砺波市都市計画図 (1/2500) に写した。遺物は、班ごとに番号を振り、全体の踏査完了後、すべての遺物に通し番号を付した。大半の遺物が細片であるため、実測可能な個体を選別して図化している。

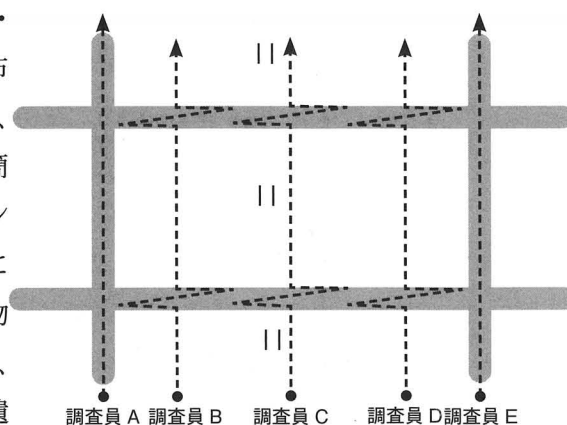


Fig.4 踏査経路模式図

包蔵地の認定 埋蔵文化財包蔵地の認定には、考古学的調査成果に限らず歴史地理学的・自然地理学的資料等の諸要素を考慮する必要がある。

平成10年6月に報告された「埋蔵文化財の把握から開発事業の発掘調査に至るまでの取り扱いについて」の中で法律上の保護対象となる「周知の埋蔵文化財包蔵地」は試掘・確認調査その他の発掘調査等の成果に基づき高い精度で把握・決定されることが必要であるとされており、その方法として、遺物の散布状況や地形の観察、地形・地質の形成過程を踏まえ、各時代の生活・生業に適した立地の想定、地形図・空中写真・地籍図・絵図等の資料等の総合的な活用が挙げられている。

実際に岐阜県大垣市教育委員会では、平成元年から平成8年度までに実施された分布調査において、踏査を主とする考古学的調査だけでなく、「時代ごとの地形復元図を作成する自然地理学的調査、絵図や地籍図（字絵図）から地表面下の痕跡を推定する歴史地理学的調査、そして低地での発掘ではまず最初に出会う掘潰れ等の輪中景観を復元する人文地理学的調査」といった地理学的手法を援用し、遺跡推定の検討材料としている¹。市域の大半が扇状地であり、「沖積地での踏査の困難さ」を指摘される点など、当市と非常に素地は似ている。大垣市教育委員会の分布調査手法は理想形とも言うべき取り組み方であるが、諸般の事情から当市で同じ手法を採用することは難しい。少しでも理想に近づけるため、当市では以下の手法を採り、埋没遺跡の範囲決定の手がかりとした。

- 1) 考古学的調査（踏査）
- 2) 歴史地理学的調査（旧字界・字名図作成）
- 3) 自然地理学的調査（従前図判読、地形分類調査）

考古学的調査の方法は、先述のとおりである。旧字名・字界図は、主に砺波郷土資料館蔵の字絵図や『砺波市史 資料編5集落』²から字名・字界を抽出し、旧地形図（昭和30年代砺波市作図）・現況地形図（平成5年砺波市作図）に情報を入力、必要に応じ識者から聞き取り調査を行った。

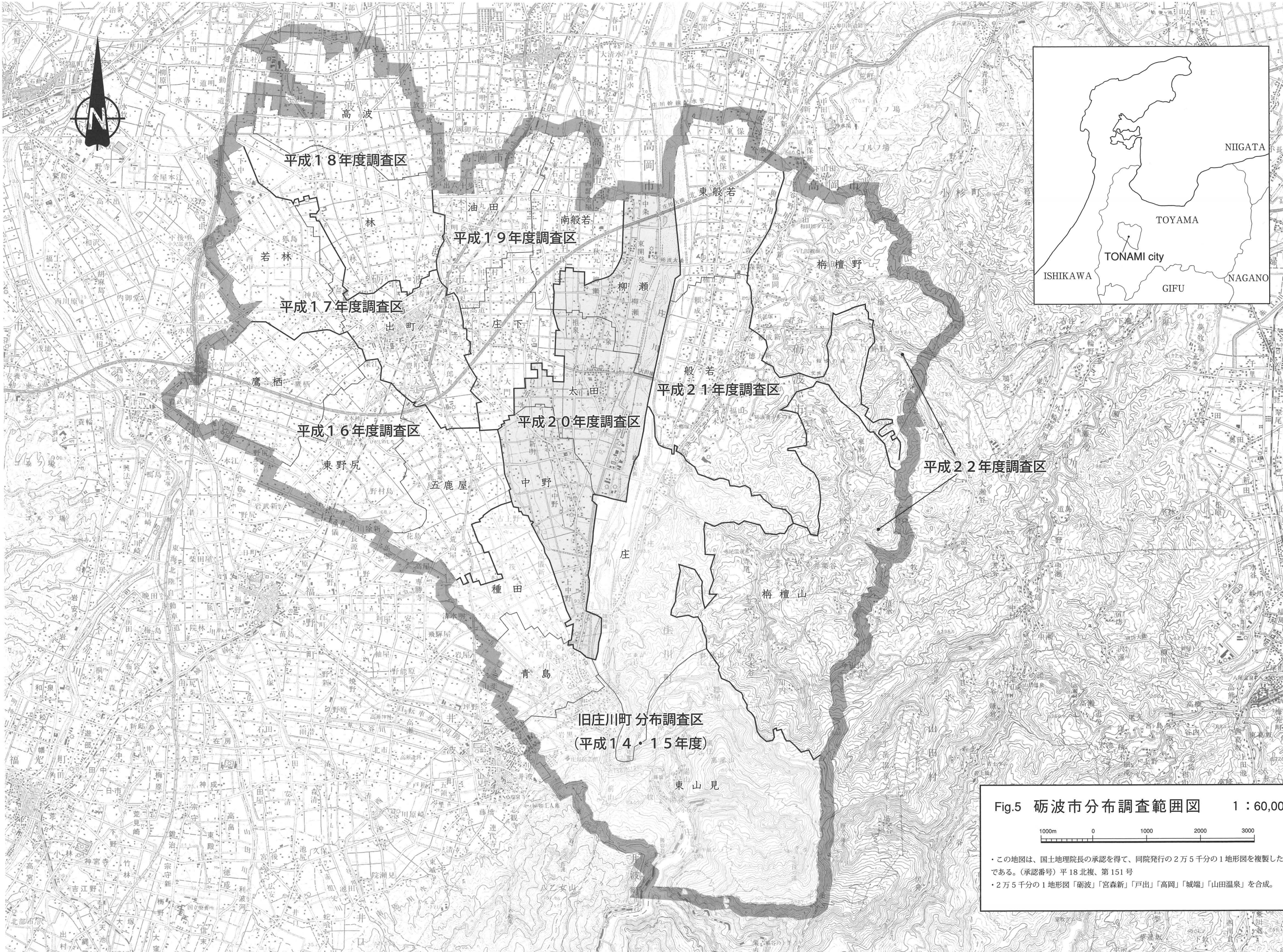
また、自然地理学的調査では、土地改良区に保管されている圃場整備前の従前図を収集し、失われた地形状況の復元を試みた。現況での地形確認が難しいため、旧地形を把握するには従前図を活用することが有効である。圃場整備前の空中写真から旧地形図・等高線図を作成することは技術的に可能であるが、費用的問題から断念した。従前図は、公図を基に作られているものや現地測量が行われているものなど精度にばらつきはあるが、基本的に縮尺が1/500もしくは1/1000であるため、空中写真よりはるかに現況図面との整合が容易である。ただし、圃場整備が行われた全地区に従前図が作成・保管されていない難点もある。

地形分類調査は、『土地分類基本調査 城端』（富山県1981）をはじめとする地形分類図・表層地質図に拠っている。また、マッドと呼ばれる黒土層について、外山秀一氏の論文「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」³を参考としている。

1 岐阜県大垣市教育委員会文化部 1997 『大垣市遺跡詳細分布調査報告書-解説編-』

2 砺波市史編纂委員会 1996 『砺波市史 資料編5集落』

3 外山秀一 1997 「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」『砺波散村地域研究所研究紀要第13号』砺波市立砺波散村地域研究所



平成18年度調査区

平成19年度調査区

平成17年度調査区

平成20年度調査区

平成16年度調査区

平成21年度調査区

平成22年度調査区

旧庄川町分布調査区
(平成14・15年度)

Fig.5 砺波市分布調査範囲図 1 : 60,000

1000m 0 1000 2000 3000

・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号)平18北複、第151号
 ・2万5千分の1地形図「砺波」「宮森新」「戸出」「高岡」「城端」「山田温泉」を合成。

第 2 章 調査の成果

1 平成 20 年度調査区の概要

- 柳 瀬** 柳瀬、柳瀬新、東開発、庄中、下中条から成る地区である。庄川の左岸に位置し、庄川に平行して太田から続く南北に長い微高地にある。柳瀬の地名は、昔地区には数条の河川が流れており、瀬ごとに築を設けていたのが由来というのが定かではない。柳瀬の中心には、微高地の長軸に沿って俗称「中筋往来」が南北に走っており、散村が広がる砺波平野にあって、珍しい街村状を呈している。天明 6 年(1786)宮永正運によって著された『越の下草』には、「柳瀬の市」の記述がみえる。近世で有名な柳瀬普請は、承応 2 年(1653)に加賀藩によって行なわれた土木工事で、村の西を流れていた千保川(当時の庄川本流)の築堤工事である。南の祖泉から流入した水が村の西から秋元・西部金屋に及んだので、祖泉から柳瀬までの川除(堤防)を築いたものである。柳瀬普請は、寛文 10 年(1670)からはじまる松川除堤防の工事に先立つ大土木工事である。また、柳瀬と下中条にはそれぞれ比売神社があり、小矢部市宮中と南砺市高宮の比売神社とともに延喜式内社の候補のひとつとされている。庄中の村域は、現在の庄川になってしまい、庄中の宮(中村宮)だけが残る。東開発の「かいほつ」という地名は中世地名であるので、村ができたのは近世より前と考えられる。開発と中村の村名は、近世初頭の慶長 10 年(1605)、前田利長から神尾図書に宛てた知行目録が初見である。
- 太 田** 太田、祖泉、久泉、竹正、五郎丸新、天野新から成る地区である。柳瀬の南に位置し、同じく庄川左岸にある。柳瀬と同じく太田遺跡を頂点とする微高地に立地し、中野とは旧千保川の河道によって隔てられている。本年度の分布調査対象地で唯一遺跡が確認されているのが、太田地区である。太田遺跡は、昭和 37 年に住吉神社の玉垣改修工事の際に須恵器片が出土したことで発見された、奈良時代の遺跡である。近くの萬福寺には中世の如来形仏と四面に種字を彫った塔身の一部が残っており、五輪塔の残骸は太田市街地に集中的に点在している。萬福寺はもと芹谷の千光寺(大宝 3 年(703)開基)の塔頭で、慶長年間に慶遍法印が当地で再興したものと伝えられる。寺地は大日屋敷、付近には仁王堂の地名が残り、萬福寺転住以前に密教系寺院が存在したことが推定される。富山県指定文化財「金子家文書」には、文禄期(1592～96)に「般若野内太田村」とあるように、中世には般若野荘の荘域に含まれていたことがわかる。平成 15～17 年に大規模発掘が行なわれた久泉遺跡では、縄文時代中期中葉から晩期初頭までの打製石斧が多数出土するとともに、奈良・平安時代の大溝と溝管理施設である「溝所」と考えられる住居跡が発見されている。
- 中 野** 畑野新・中野新(上中野)、中野、中野出、新明から成る地区である。近世に普請された松川除堤防に沿って集落が形成されており、旧河道に挟まれた南北に長い微高地に立地する。旧庄川の本流が平野部に流入する不安定な土地であり、常に洪水の危険に苛まれていた場所である。河道によって流されてしまったのか、当地区はこれまで遺跡未発見の地である。中野村の開祖・小右衛門(藤井)は、もと宗守城の城主であったが永禄 6 年(1563)の上杉謙信に攻められて落城し、この地へ逃げ延びて村を拓いたと伝わる。また、新明の「明」は中世の名田の「名」に由来すると考えられている。

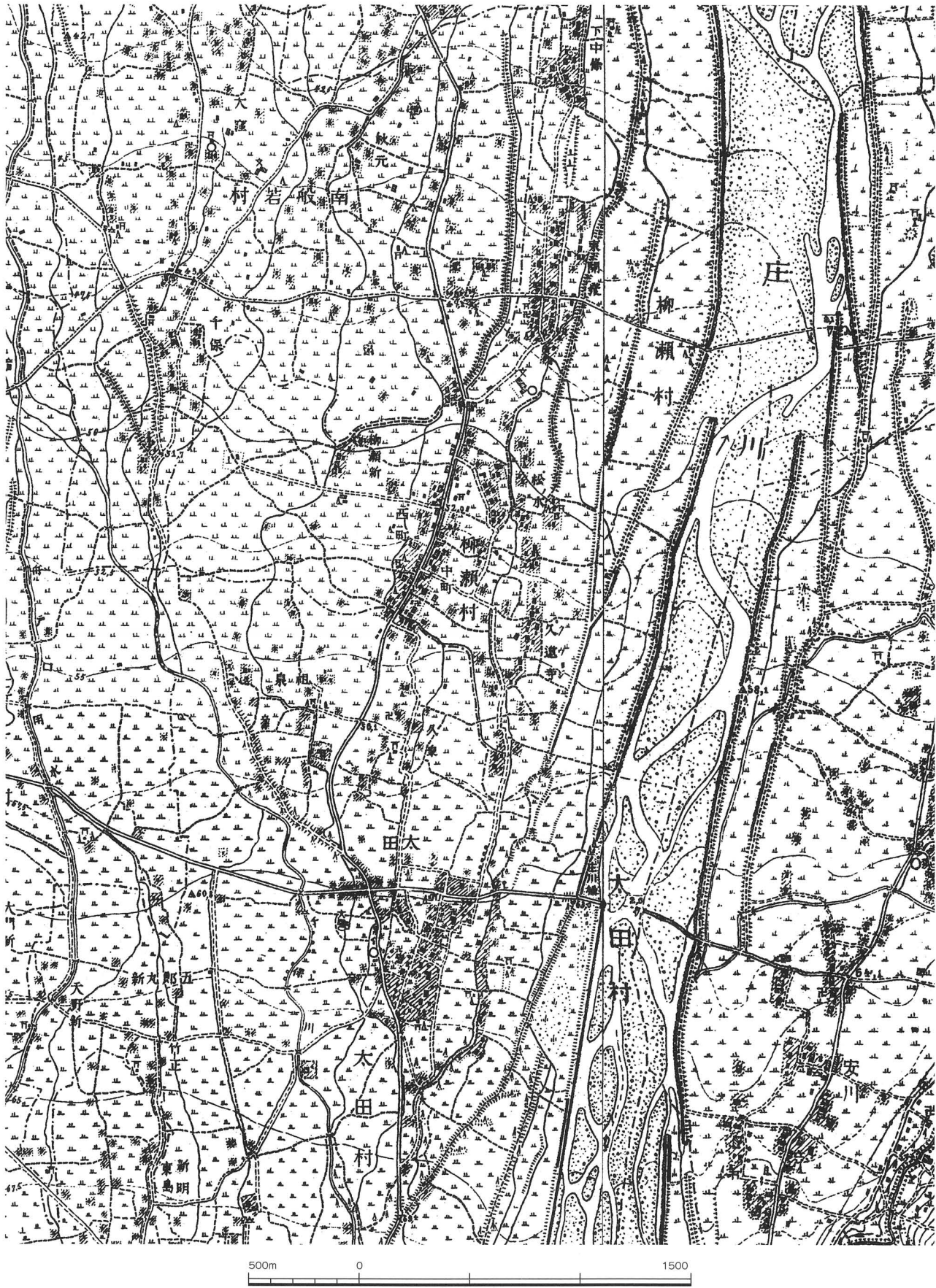


Fig.6 調査区周辺の旧版地図

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万分の1旧版地図を複製したものである。(承認番号)平18北複、第151号

2 採集遺物

遺物構成 採集遺物の時期別点数は、縄文 1 点、古代 8 点、中世 21 点、近世 70 点、近代・時期不明 81 点、合計 181 点である。種類は、縄文土器、須恵器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、九谷、土師質土器、銭貨、陶磁器等で構成される。遺物割合は、縄文 0.6%、古代 4.4%、中世 11.6%、近世 38.7%、近代 44.8%となる。

分布状況 柳瀬・太田・中野の各地区において、遺物が採集されたが中野の遺物量が突出して少ない。また、全体遺物量の半分は

柳瀬で採集されており、各地区によって遺物量に偏りが認められる。縄文期の遺物は、以前の発掘調査で縄文時代の打製石斧が多量に出土した久泉遺跡で採集している。古代遺物は、久泉遺跡、柳瀬、下中条、太田遺跡付近に分布している。近世・近代の遺物を除いて多かったのが、中世期の遺物である。それらは、中世石造物が濃密に分布する太田や柳瀬の中心部付近で広く採集された。中世期遺物の分布状況は、中世に成立した徳大寺家領般若野荘の荘域を考える上で貴重な情報となり得る可能性がある。

遺物解説 須恵器はいずれも小片で図化に耐えうるものが少ない。92 は杯蓋で、つまみが欠損するが口縁部が一部残存している。外面に自然釉が付着している。口径を復元すると 11.4cm を測り、8 世紀後半のものと考えられる。93 は杯の底部である。23・16・44・189・60・17 はいずれも甕の胴部片であり、外面に平行叩き目、内面に同心円状の当て具痕が残る。61 は珠洲の播鉢の口縁部である。128 も珠洲の播鉢であるが、片口の部分である。87 は珠洲の壺の底部である。131・141・65・33・103・90・150 はいずれも珠洲の甕の胴部片である。小破片のため、詳細な年代は判然としない。外面に平行叩き目を施し、内面には礫の当て具痕が残る。97・56・98・40・86 は越中瀬戸である。86 以外は、すべて皿の底部である。40 は底部に糸切り痕が残る。97・56・98 は削り出しの高台がつく。86 は向付で、口縁部が残存する。147 は肥前系磁器の皿で、底部が欠損する。99 も同様に肥前系磁器で、高台が残り底径 4.2cm を測る。52 は鉢である。180 も肥前系磁器の皿で、内外面に染付けを施している。64 も皿で、底径 7.5cm を測る。166 は湯呑みで、外面に草花文様の染付けを施している。164・125・66・148 は碗である。171 は火入れである。24 は、九谷の大皿で底径は復元で 20.4cm を測る。161 は寛永通宝である。

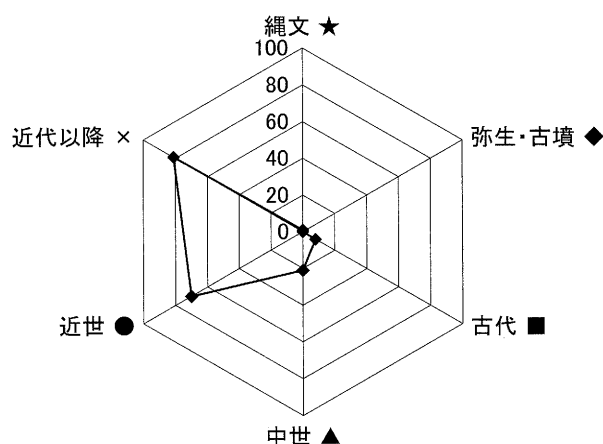


Fig.7 採集遺物の時期別点数

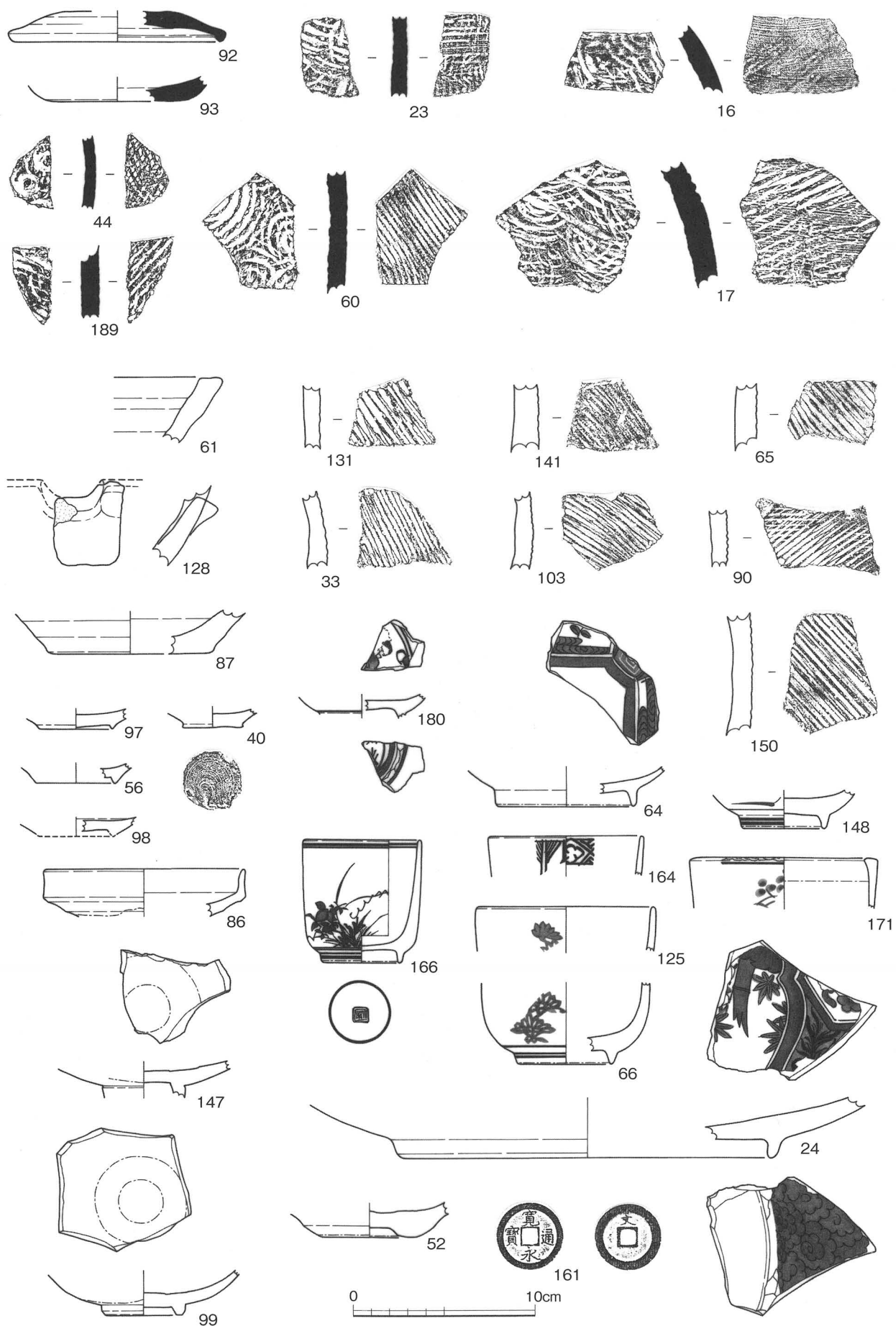


Fig.8 遺物実測図 S = 1 : 3

Tab.3 採集遺物観察表

表採番号	地区名	日付	分類	器種	口径	器高	底径	備考
92	久泉	081201	須恵器	杯蓋	(11.4)	(1.7)		
93	久泉	081201	須恵器	杯A		(1.4)	(6.6)	
23	下中条	081126	須恵器	甕		(4.5)		
16	下中条	081126	須恵器	甕		(3.6)		
44	柳瀬	081127	須恵器	甕		(4.0)		
189	上中野	081211	須恵器	甕		(4.0)		
60	柳瀬	081127	須恵器	甕		(6.7)		
17	下中条	081126	須恵器	甕		(7.0)		
61	柳瀬	081127	珠洲	播鉢		(3.6)		
128	太田	081201	珠洲	播鉢		(4.7)		
87	柳瀬	081201	珠洲	壺		(2.4)	(8.3)	
131	太田	081202	珠洲	甕		(3.5)		
141	太田	081202	珠洲	甕		(3.7)		
65	柳瀬	081127	珠洲	甕		(3.6)		
33	東開発	081126	珠洲	甕		(4.3)		
103	久泉	081201	珠洲	甕		(4.2)		
90	柳瀬	081201	珠洲	甕		(3.1)		
150	太田	081202	珠洲	甕		(6.8)		
97	久泉	081201	越中瀬戸	皿		(1.1)	4.0	
56	柳瀬	081127	越中瀬戸	皿		(1.1)	(4.4)	
98	久泉	081201	越中瀬戸	皿		(1.0)	(4.2)	
40	東開発	081127	越中瀬戸	皿		(1.0)	3.2	
86	柳瀬	081201	越中瀬戸	向付	11.0	(2.6)		
147	太田	081202	肥前	皿		(2.0)		
99	久泉	081201	肥前	皿		(2.5)	4.2	
52	柳瀬	081127	肥前	鉢?		(1.9)	5.2	
180	中野	081210	肥前	皿		(1.3)		
64	柳瀬	081127	肥前	皿		(2.2)	7.5	
166	新明	081204	肥前	碗	6.5	6.8	4.2	
164	新明	081204	肥前	碗	(8.4)	(2.2)		
125	久泉	081201	肥前	碗	(9.7)	(2.5)		コンニャク印判
66	柳瀬	081127	肥前	碗		(4.5)	5.1	コンニャク印判
148	太田	081202	肥前	碗		(2.1)	4.5	
171	新明	081204	肥前	火入れ	(10.4)	(2.8)		
24	東開発	081126	九谷	皿		(3.4)	(20.4)	
161	太田	081204	銭貨					寛永通寶

Tab.4 中世石造物一覧

宝篋印塔

番号	名称	所在地	形態・状態	笠(高さ)	笠(幅)	石質	備考	時期(市史)
24~26	専念寺塔	太田五区・専念寺	笠のみ残欠	37	34	凝灰岩	御堂の後ろにあり、元墓地であった。	室町期
12	光円寺塔	太田・久泉・光円寺	笠のみ残欠	17	23	凝灰岩	かつて光円寺庭園の灯籠の一部となっていたが、現在は墓地に安置されている。	室町期

五輪塔

番号	名称	所在地	個体数(市史) ※ () 内は確認できた数	備考	時期(市史)
20~23	新明共同墓地塔	中野・新明・共同墓地	空風輪1、水輪1		
18~19	地藏堂内塔	中野七区・庄南小学校西地藏堂内	火輪1		含南北朝期
32~36	太田共同墓地塔	太田五区・共同墓地	空風輪3、火輪2、水輪1		
46~49	万福寺境内塔	太田十区・万福寺	空風輪0(1)、水輪1(1)、地輪0(1)	水輪の他に空風輪1点と地輪1点を追加確認。	
-	地藏堂内塔	太田・祖泉・地藏堂	水輪1(0)	確認出来ず	
1~8	久泉共同墓地塔	太田・久泉・共同墓地	空風輪4(4)、火輪6(6)、水輪1(2)、地輪1(1)	水輪1点を追加確認。	
9・10・13~17	光円寺塔	太田・久泉・光円寺墓地	空風輪2(4)、火輪2(2)、水輪1(2)	空風輪2点と水輪1点を追加確認。	
37~39	北村善蔵宅北塔	柳瀬・久遠寺・北村善蔵宅北	空風輪1		
55・56	万遊寺塔	柳瀬・中町・万遊寺	空風輪3(2)、火輪4(0)、水輪4(2)、地輪1(1)	空風輪1点、火輪4点、水輪2点所在不明。	鎌倉~室町
50~54	観音堂塔	柳瀬・中町・万遊寺東	空風輪2、火輪1、水輪1		
59~62	柳瀬共同墓地塔	柳瀬・共同墓地	空風輪3(0)、火輪4(0)、水輪1(1)、地輪1(0)	水輪1点以外は所在不明	南北朝期

石仏 *は撮影できなかったもの

番号	尊名	所在地	姿勢彫法	高さ	幅	石質	備考	時期(市史)
44~45	如来形仏	太田十区・万福寺	坐浮	44	29	凝灰岩	将棋の駒形で蓮華座がある。	南北朝~室町
30	地藏	太田・祖泉・祖泉神社東	半浮	50	34	凝灰岩		南北朝~室町
31	如来形仏	太田・祖泉・祖泉神社東	坐浮	53	30	砂岩質		南北朝~室町
-	如来形仏	太田・久泉・久泉神社 *	坐浮	33	29	砂岩質	御神体か?	南北朝~室町
50~54	如来形仏	柳瀬・中町・万遊寺観音堂	坐浮	44	28	砂岩質	中世期は墓地であったといわれている。	南北朝~室町
50~54	如来形仏	柳瀬・中町・万遊寺観音堂	坐浮	37	25	砂岩質	同上	南北朝~室町
50~54	如来形仏	柳瀬・中町・万遊寺観音堂	坐浮	32	30	砂岩質	同上	南北朝~室町
50~54	地藏	柳瀬・中町・万遊寺観音堂	半浮	67	27	凝灰岩	六体地藏のうちの一体と思われる。	南北朝~室町
-	如来形仏	柳瀬・新町・地藏堂 *	坐浮	56	30	砂岩質	吉田和六宅の土中より出土した。	南北朝~室町
-	地藏	柳瀬・下中条・比賣神社 *	半浮			凝灰岩	御神体か?	

その他の石造遺物 *は撮影できなかったもの

番号	名称	所在地	個体数	備考	時期
40~45	万福寺塔	太田十区・万福寺	層塔の一部(塔身部)	四面に梵字が彫ってある。	鎌倉期
-	光円寺塔	太田・久泉・光円寺 *	層塔の一部(笠部)	確認できず。所在不明	
-	万遊寺塔	柳瀬・中町・万遊寺 *	層塔の一部	確認できず。所在不明	

Tab.5 採集遺物一覧(1)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	実測図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	実測図
001	下中条	磁器	近代	×	2008/11/25		052	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	No.26
002	下中条	陶器	近代	×	2008/11/25		053	柳瀬	陶器	近代	×	2008/11/27	
003	下中条	土師質土器	不明	×	2008/11/25		054	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
004	下中条	磁器	近代	×	2008/11/25		055	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
005	下中条	磁器	近代	×	2008/11/25		056	柳瀬	越中瀬戸	近世	●	2008/11/27	No.19
006	下中条	珠洲	中世	▲	2008/11/26		057	柳瀬	磁器	不明	×	2008/11/27	
007	下中条	陶器	不明	×	2008/11/26		058	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
008	下中条	陶器	不明	×	2008/11/26		059	柳瀬	陶器	近世	●	2008/11/27	
009	下中条	陶器	不明	×	2008/11/26		060	柳瀬	須恵器	古代	■	2008/11/27	No.17
010	下中条	陶器	近代	×	2008/11/25		061	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/11/27	No.9
011	下中条	陶器	近世	●	2008/11/26		062	柳瀬	磁器	近世	●	2008/12/1	
012	下中条	磁器	近代	×	2008/11/26		063	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/11/27	
013	下中条	陶器	近世	●	2008/11/26		064	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	No.28
014	下中条	磁器	近代	×	2008/11/26		065	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/11/27	No.2
015	下中条	磁器	近世	●	2008/11/26		066	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	No.31
016	下中条	須恵器	古代	■	2008/11/26	No.16	067	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/12/1	
017	下中条	須恵器	古代	■	2008/11/26	No.18	068	柳瀬	陶器	近世	●	2008/11/27	
018	下中条	陶器	不明	×	2008/11/26		069	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
019	下中条	土師質土器	不明	×	2008/11/26		070	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
020	下中条	須恵器	古代	■	2008/11/26		071	柳瀬	越中瀬戸	近世	●	2008/11/27	
021	下中条	磁器	不明	×	2008/11/26		072	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
022	下中条	銭貨	近代	×	2008/11/26		073	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
023	下中条	須恵器	古代	■	2008/11/26	No.15	074	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
024	東開発	九谷	近代	×	2008/11/26	No.27	075	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
025	東開発	磁器	近世	●	2008/11/26		076	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
026	東開発	磁器	不明	×	2008/11/26		077	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
027	東開発	磁器	近世	●	2008/11/26		078	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27	
028	東開発	陶器	近世	●	2008/11/26		079	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
029	東開発	磁器	不明	×	2008/11/26		080	柳瀬	陶器	近世	●	2008/11/27	
030	下中条	磁器	近代	×	2008/11/26		081	柳瀬	陶器	近代	×	2008/11/27	
031	下中条	煉瓦	近代	×	2008/11/26		082	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
032	東開発	陶器	不明	×	2008/11/26		083	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27	
033	東開発	珠洲	中世	▲	2008/11/26	No.3	084	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/11/27	
034	東開発	磁器	近代	×	2008/11/26		085	柳瀬	土師質土器	不明	×	2008/11/27	
035	東開発	土師質土器	不明	×	2008/11/27		086	柳瀬	越中瀬戸	近世	●	2008/12/1	No.23
036	東開発	磁器	近代	×	2008/11/27		087	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/12/1	No.8
037	東開発	磁器	近世	●	2008/11/27		088	柳瀬	須恵器	古代	■	2008/12/1	
038	東開発	珠洲	中世	▲	2008/11/27		089	柳瀬	磁器	近世	●	2008/12/1	
039	東開発	磁器	近世	●	2008/11/27		090	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/12/1	No.4
040	東開発	越中瀬戸	近世	●	2008/11/27	No.21	091	久泉	磁器	近世	●	2008/12/1	
041	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27		092	久泉	須恵器	古代	■	2008/12/1	No.12
042	柳瀬	煉瓦	近代	×	2008/11/27		093	久泉	須恵器	古代	■	2008/12/1	No.11
043	柳瀬	煉瓦	近代	×	2008/11/27		094	久泉	須恵器	古代	■	2008/12/1	
044	柳瀬	須恵器	古代	■	2008/11/27	No.13	095	久泉	陶器	近世	●	2008/12/1	
045	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27		096	久泉	磁器	近世	●	2008/12/1	
046	柳瀬	陶器	不明	×	2008/11/27		097	久泉	越中瀬戸	近世	●	2008/12/1	No.22
047	柳瀬	珠洲	中世	▲	2008/11/27		098	久泉	越中瀬戸	近世	●	2008/12/1	No.20
048	柳瀬	磁器	近世	●	2008/11/27		099	久泉	陶器	近世	●	2008/12/1	No.25
049	柳瀬	陶器	近世	●	2008/11/27		100	久泉	磁器	近世	●	2008/12/1	
050	柳瀬	磁器	近代	×	2008/11/27		101	久泉	磁器	近世	●	2008/12/1	
051	柳瀬	陶器	近世	●	2008/11/27		102	久泉	須恵器	古代	■	2008/12/1	

Tab.6 採集遺物一覧 (2)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	実測図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	実測図
103	久泉	珠洲	中世	▲	2008/12/1	No.6	153	太田	土師器	古代	■	2008/12/2	
104	久泉	陶器	近世	●	2008/12/1		154	太田	磁器	近代	×	2008/12/2	
105	久泉	磁器	近代	×	2008/12/1		155	太田	磁器	不明	×	2008/12/2	
106	久泉	縄文土器?	縄文	★	2008/12/1		156	太田	土師質土器	不明	×	2008/12/4	
107	久泉	陶器	近世	●	2008/12/1		157	太田	磁器	近代	×	2008/12/4	
108	久泉	陶器	近世	●	2008/12/1		158	太田	磁器	近代	×	2008/12/4	
109	久泉	陶器	近世	●	2008/12/1		159	太田	磁器	近代	×	2008/12/4	
110	祖泉	磁器	近世	●	2008/12/1		160	太田	磁器	不明	×	2008/12/4	
111	祖泉	陶器	近代	×	2008/12/1		161	太田	銭貨	近世	●	2008/12/4	No.36
112	祖泉	磁器	近代	●	2008/12/1		162	太田	磁器	近世	●	2008/12/3	
113	祖泉	磁器	近代	×	2008/12/1		163	新明	磁器	不明	×	2008/12/2	
114	祖泉	磁器	近世	●	2008/12/1		164	新明	磁器	近世	●	2008/12/4	No.33
115	祖泉	磁器	近代	×	2008/12/1		165	新明	磁器	近世	●	2008/12/4	
116	祖泉	磁器	近世	●	2008/12/1		166	新明	磁器	近代	×	2008/12/4	No.34
117	祖泉	磁器	近代	×	2008/12/1		167	新明	磁器	近世	●	2008/12/4	
118	祖泉	磁器	近代	×	2008/12/1		168	新明	磁器	近代	×	2008/12/4	
119	祖泉	磁器	近世	●	2008/12/1		169	新明	磁器	不明	×	2008/12/10	
120	祖泉	磁器	近世	●	2008/12/1		170	新明	磁器	近世	●	2008/12/4	
121	祖泉	珠洲	中世	▲	2008/12/1		171	新明	磁器	近世	●	2008/12/4	No.35
122	祖泉	陶器	近代	×	2008/12/1		172	新明	磁器	近代	×	2008/12/4	
123	久泉	磁器	近代	×	2008/12/1		173	新明	磁器	近代	×	2008/12/10	
124	久泉	磁器	近世	●	2008/12/1		174	中野	越前	中世	▲	2008/12/10	
125	久泉	磁器	近世	●	2008/12/1	No.32	175	中野	磁器	近世	●	2008/12/10	
126	太田	磁器	近世	●	2008/12/1		176	中野	磁器	近世	●	2008/12/10	
127	太田	珠洲	中世	▲	2008/12/1		177	中野	銭貨	近代	×	2008/12/10	
128	太田	珠洲	中世	▲	2008/12/1	No.10	178	中野	磁器	近世	●	2008/12/10	
129	太田	須恵器	古代	■	2008/12/1		179	中野	磁器	近代	×	2008/12/10	
130	太田	磁器	近代	×	2008/12/2		180	中野	磁器	近世	●	2008/12/10	No.30
131	太田	珠洲	中世	▲	2008/12/2	No.5	181	中野	磁器	近代	×	2008/12/10	
132	太田	珠洲	中世	▲	2008/12/2		182	中野	磁器	近代	×	2008/12/10	
133	太田	越前	中世	▲	2008/12/2		183	中野	磁器	近代	×	2008/12/10	
134	太田	陶器	不明	×	2008/12/2		184	中野	磁器	近代	×	2008/12/11	
135	太田	磁器	近代	×	2008/12/2		185	中野	磁器	近代	×	2008/12/11	
136	太田	陶器	近世	●	2008/12/2		186	中野	陶器	不明	×	2008/12/11	
137	太田	陶器	近代	×	2008/12/2		187	中野	磁器	近世	●	2008/12/11	
138	太田	磁器	近世	●	2008/12/2		188	中野	瓦	不明	×	2008/12/11	
139	太田	越中瀬戸	近世	●	2008/12/2		189	上中野	須恵器	古代	■	2008/12/11	No.14
140	太田	磁器	近代	×	2008/12/2		-		不用				
141	太田	珠洲	中世	▲	2008/12/2	No.1	-		不用				
142	太田	須恵器	古代	■	2008/12/2		-		不用				
143	太田	陶器	不明	×	2008/12/2								
144	太田	陶器	不明	×	2008/12/2								
145	太田	磁器	近世	●	2008/12/3								
146	太田	磁器	近代	×	2008/12/3								
147	太田	磁器	近世	●	2008/12/2	No.24							
148	太田	磁器	近世	●	2008/12/2	No.29							
149	太田	土師器	古代	■	2008/12/2								
150	太田	珠洲	中世	▲	2008/12/2	No.7							
151	太田	陶器	不明	×	2008/12/2								
152	太田	磁器	近代	×	2008/12/2								

3 遺跡各説

遺跡名	<small>しもなかじょう</small> 下中条遺跡〔新規〕	遺跡番号	—	地図	NJ531211
所在地	砺波市下中条	現況	水田・宅地		
種別	古代散布地	時代	古代		
遺物番号	13～17,20～22				
包蔵地 認定	現在の下中条集落周縁部において、古代遺物を採集した。遺物は、小片のため時代特定は難しいが奈良・平安期に帰属すると考えられる。周辺の古代遺跡は、秋元窪田島遺跡や久泉遺跡が知られるが両遺跡とも距離があり、旧地形は庄川の氾濫原にあって他の古代遺跡のようにマッドに立地しない。しかし、金田章裕による東大寺領伊加留岐荘の比定地の北に位置し、古代遺跡が散布することから、包蔵地に認定した。				
調査歴					
文献					
遺跡名	<small>やなげ</small> 柳瀬遺跡〔新規〕	遺跡番号	—	地図	NJ531211
所在地	砺波市柳瀬	現況	水田・宅地		
種別	古代散布地、中世散布地	時代	古代、中世		
遺物番号	59～65				
包蔵地 認定	柳瀬の中町及び新町において、古代・中世の遺物を採集した。柳瀬の中心部を縦断する中筋往来沿いには、延喜式内社のひとつに比定される比売神社や増山城の出城との伝承が残る万遊寺がある。この中筋往来は河岸段丘に沿って作られた道と考えられ、東側にはマッドが広がる。西側は河道であるため除外し、中筋往来を中心として古代・中世遺物が採集された範囲を包蔵地に認定した。				
調査歴	なし				
文献	なし				
遺跡名	<small>やなげくおんじ</small> 柳瀬久遠寺遺跡〔新規〕	遺跡番号	—	地図	NJ531211
所在地	砺波市柳瀬	現況	水田・宅地		
種別	古代散布地、中世散布地	時代	古代、中世		
遺物番号	86～89, 中世石造物 37～39				
包蔵地 認定	久遠寺集落に沿って、南北に長く遺物が散布していた。ここは、久泉から続く南北に長いマッド上にあたり、微高地である。遺物の散布状況は、この微地形を表している。古代では須恵器、中世では珠洲を採集しており、南では五輪塔の残骸を確認している。遺物の採集された地点を中心とし、五輪塔を確認した箇所を含めて包蔵地に認定した。				
調査歴	なし				
文献	なし				

遺跡名	<small>ひさいずみ</small> 久泉大溝跡 [新規]	遺跡番号	—	地図	NJ531211
所在地	砺波市柳瀬	現況	水田・宅地		
種別	古代溝跡	時代	古代		
遺物番号	34,36,37,45				
包蔵地	砺波市教育委員会が平成17年に実施した地中レーダ探査により、久泉遺跡で検出した古代大				
認定	溝を確認したため、その大溝の推定範囲を包蔵地として認定した。				
調査歴	本調査 (H16・17)、試掘 (H14)				
文献	砺波市教育委員会 2005『久泉遺跡発掘調査報告Ⅱ』				
	同 2007『久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ』				

遺跡名	<small>ひさいずみ</small> 久泉遺跡 [内容変更]	遺跡番号	208073	地図	NJ531211
所在地	砺波市祖泉・久泉	現況	水田・宅地		
種別	縄文散布地、古代官衙、中世集落、近世散布地	時代	縄文、古代、中世、近世		
遺物番号	94,96,98～114,120,122, 中世石造物 1～8,9～17,27～31				
包蔵地	砺波市教育委員会が平成15年から3ヵ年かけて実施した本調査に基づき、種別内容を「古代				
認定	集落」から「古代官衙」、「中世散布地」から「中世集落」に変更した。				
調査歴	本調査 (H15～17)、試掘 (H14)				
文献	砺波市教育委員会 2004『久泉遺跡発掘調査報告Ⅰ』, 2005『久泉遺跡発掘調査報告Ⅱ』				
	2007『久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ』				

遺跡名	<small>おおたきた</small> 太田北遺跡 [新規]	遺跡番号	—	地図	NJ531211
所在地	砺波市太田	現況	水田・宅地		
種別	中世散布地	時代	中世		
遺物番号	131～135				
包蔵地	太田市街地の北側水田で中世遺物を採集した。遺物は珠洲2点と越前1点と少なく、市街の				
認定	南側には中世石造物を多数確認しているが、遺物採集範囲を中心に包蔵地認定した。				
調査歴	なし				
文献	なし				

遺跡名	<small>おおた</small> 太田遺跡 [変更なし]	遺跡番号	208074	地図	NJ531211
所在地	砺波市太田	現況	境内地		
種別	古代散布地	時代	古代		
遺物番号	—				
包蔵地	遺物は採集されず、地形的にも遺跡の広がりを確認できなかったことから、包蔵地の範囲及				
認定	び内容について変更なしとする。				
調査歴	なし				
文献	なし				

第3章 まとめ

調査所見 今年度調査区は、かつての庄川本流であった千保川の右岸域であり、中世期に成立した徳大寺家領般若野荘の西縁部にあたる。古代には、柳瀬の一部が東大寺領伊加留岐荘の比定地となっている。平成18年に実施した地中レーダ探査によって、古代に開削された久泉遺跡の大溝が全長2kmにわたり、地中に埋没している状況を確認することができたため、今回新規に包蔵地として認定することにした。この大溝は、溝管理施設「溝所」の可能性がある久泉遺跡から荘園に導水した大規模用水路と考えられ、発掘調査とその後の非破壊によるレーダ探査によって確認した構造物を包蔵地として認定したことに意義がある。下中条では、これまで遺跡の発見がなかったが、古代遺物がある程度散布していることを確認できた。久泉大溝跡の下流にあたり、レーダ探査時にも大溝跡周辺で古代遺物を採集したことから、下中条遺跡も遺物年代から考慮して荘園関連遺跡の可能性もある。東大寺領荘園比定地の大半は、天正年間以降に流れが移動した庄川の河川敷となっており、柳瀬久遠寺遺跡の以東では遺物が全く採集できなかった。遺跡が存在したとしても庄川によって流されたとも考えられる。

久泉、太田、柳瀬久遠寺では中世石造物が多い。久泉遺跡からは般若野荘時代の石組建物跡や墓と考えられる土坑が見つかっており、柳瀬には増山城の出城伝説のある万遊寺もあって、中世色の濃い地域といえる。それらの地域を中心として、領家方・地頭方の判別はできないものの中世期のある程度の勢力があったことが推察される。

中野地区は、採集遺物が少なく、包蔵地を認定するには至らなかった。旧千保川の流入口があり不安定な土地であることから、人々が集落を形成しなかった、もしくは遺跡があったとしても流失したとの推測ができる。これまで遺跡未発見地域だったが、踏査後も包蔵地図に変化はないという結果に終わった。

今回の調査対象地は、現在の庄川と旧千保川に挟まれた土地であるため、遺物の非採集地点と河道の範囲が重なるという現象が認められた。遺跡が立地する地形は、マッドのある微高地の周縁部を主とすることを改めて認識できた。

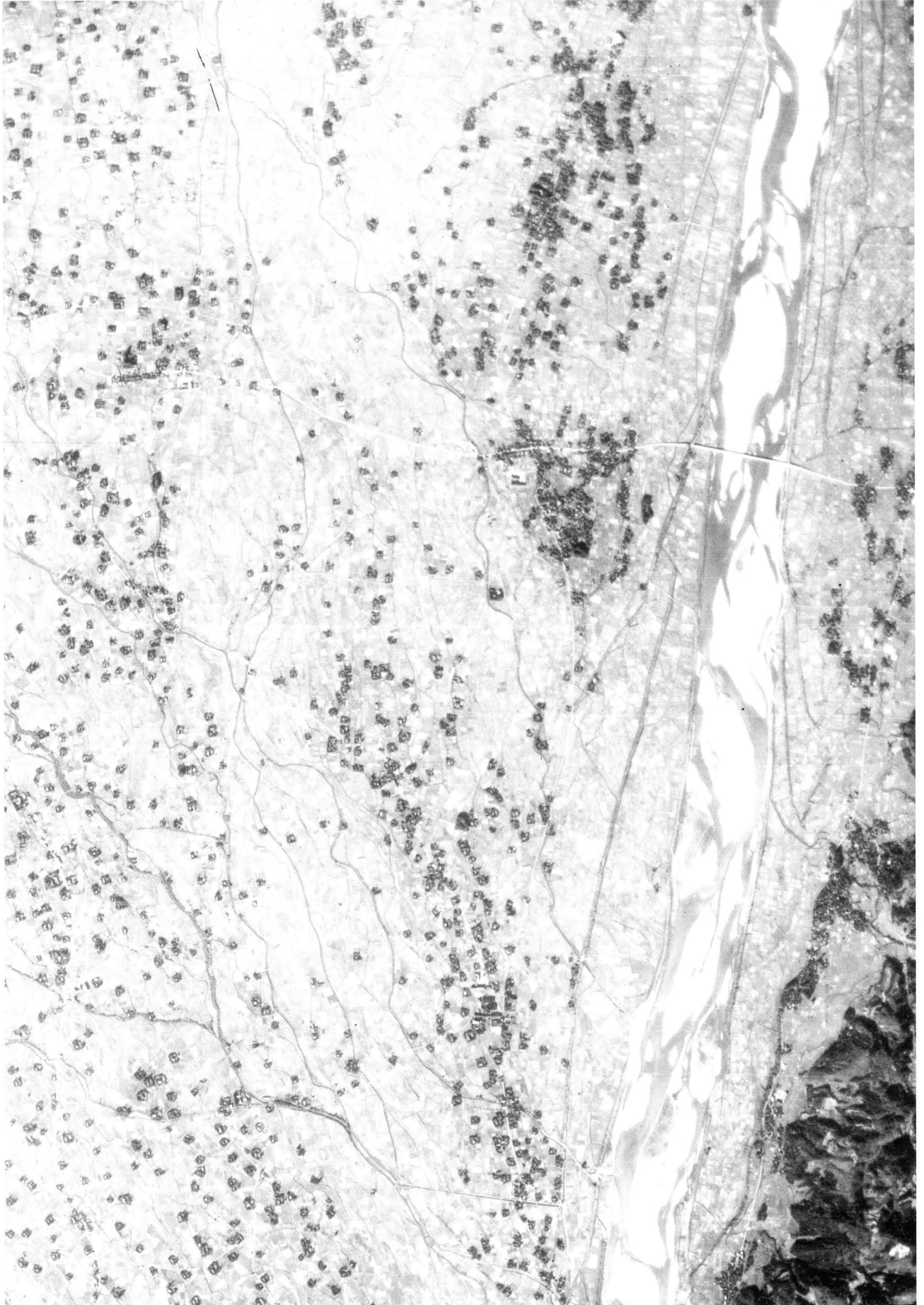
Tab.7 調査遺跡一覧

	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	摘要
1	—	下中条遺跡	砺波市下中条	古代	新規
2	—	柳瀬遺跡	砺波市柳瀬	古代・中世	新規
3	—	柳瀬久遠寺遺跡	砺波市柳瀬	古代・中世	新規
4	—	久泉大溝跡	砺波市柳瀬	古代	新規
5	208073	久泉遺跡	砺波市祖泉・久泉	縄文・古代・中世・近世	内容変更
6	—	太田北遺跡	砺波市太田	中世	新規
7	208074	太田遺跡	砺波市太田	古代	変更なし

※新規5遺跡、内容変更1遺跡、変更なし1遺跡

参考文献

- 有蘭正一郎他編 2001 『歴史地理調査ハンドブック』 古今書院
- 犬伏和之・安西徹郎編 2001 『土壌学概論』 朝倉書店
- 大垣市教育委員会文化部 1997 『大垣市遺跡詳細分布調査報告書 解説編』
- 神島利夫 1982 「地形地質」『地下水利用等基礎調査報告書』 富山県
- 鈴木隆介 1998 『建設技術者のための地形図読図入門 第2巻 低地』 古今書院
- 高橋 学 2003 『平野の環境考古学』 古今書院
- 竹村利夫 1978 「砺波平野南部地域の段丘地形」『地理学評論』vol.51-9
- 地学団体研究会編 1994 『新版地学教育講座9 地表環境の地学—地形と土壌—』 東海大学出版会
- 砺波市・砺波市土地改良協会 1985 『砺波市ほ場整備完成記念誌』
- 砺波市史編纂委員会 1990 『砺波市史資料編1 考古 古代・中世』
- 1996 『砺波市史資料編5 集落』
- 富山県農地林務部ほ場整備課 1981 『土地分類基本調査 城端』
- 1970 『土地分類基本調査 石動』
- 外山秀一 1997 「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」
『砺波散村地域研究所研究紀要第13号』 砺波市立砺波散村地域研究所
- 久間一剛他編 1993 『土壌の事典』 朝倉書店
- 深井三郎 1976 『富山の地形と地質』 富山県自然保護課



この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真(昭和24年)を複製したものである。(承認番号)平18北複、第151号

PL.2 空中写真(2)



この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真（平成14年）を複製したものである。（承認番号）平18北複、第151号

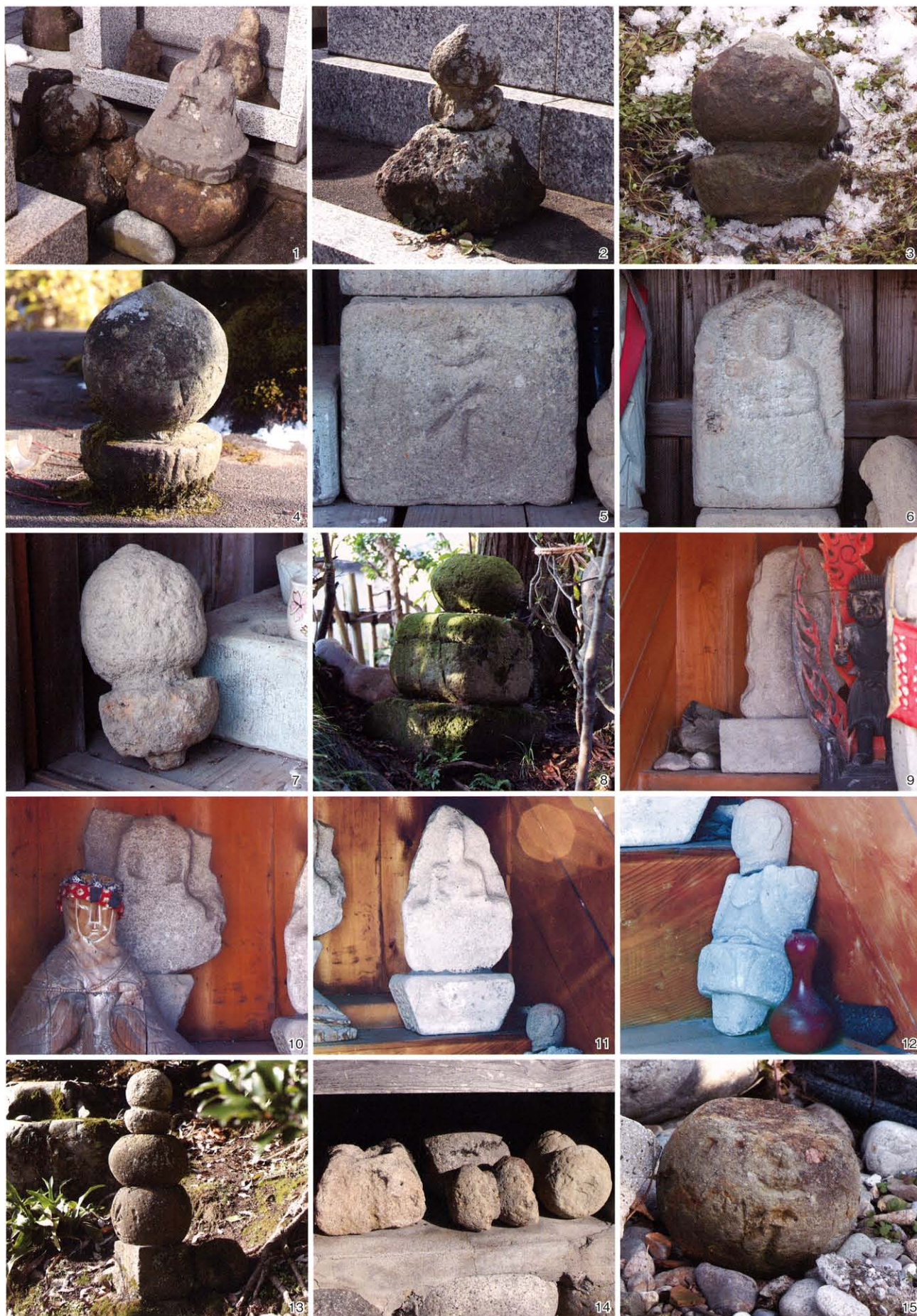


1. 下中条遺跡 2. 柳瀬遺跡 3. 柳瀬久遠寺遺跡 4. 久泉大溝跡 5. 久泉遺跡 6. 太田北遺跡 7. 太田遺跡 8. 入道家住宅 (富山県指定文化財)

PL.4 調査写真 (2)



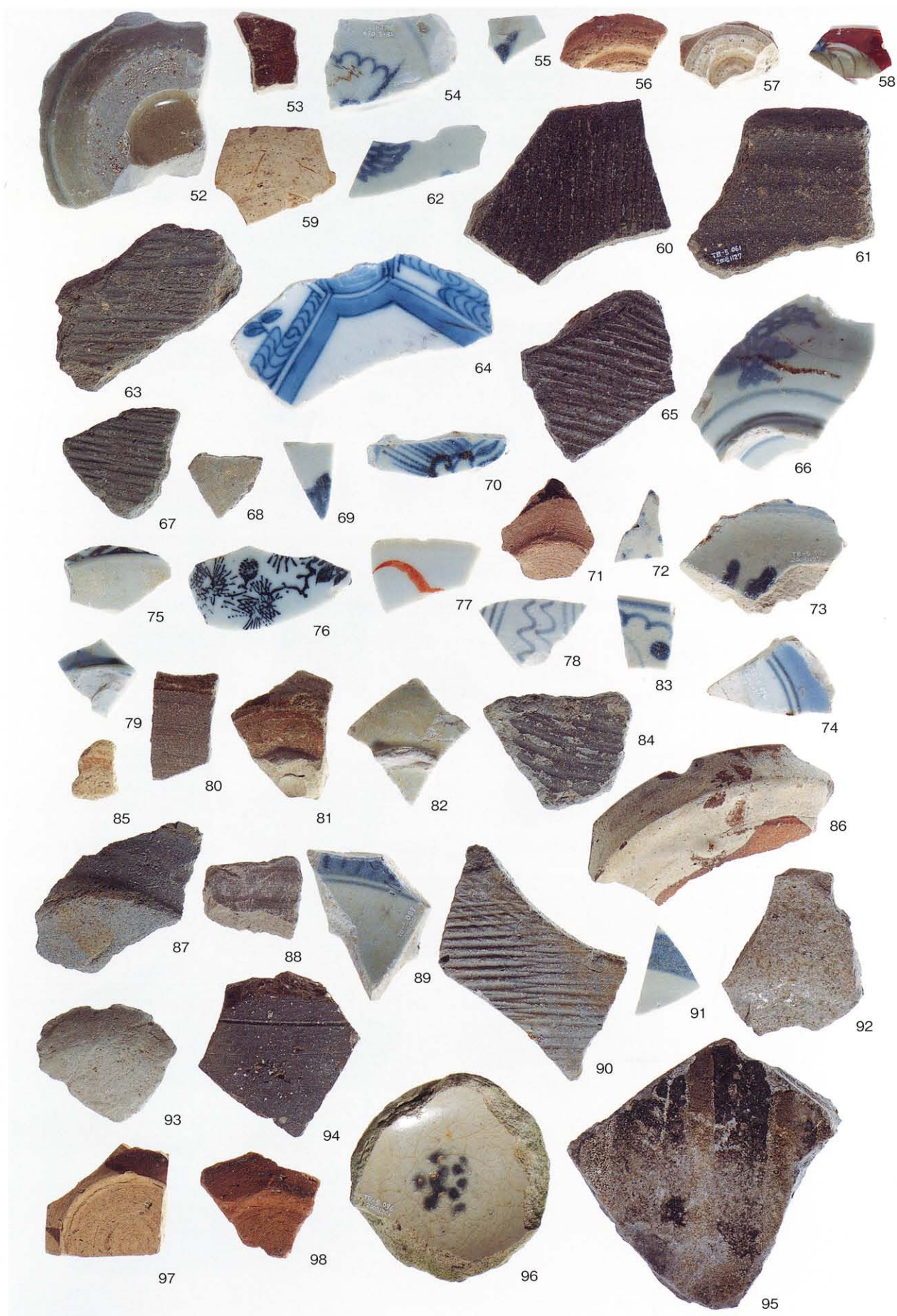
1. 久泉共同墓地塔 (3) 2. 久泉共同墓地塔 (4) 3. 久泉共同墓地塔 (5) 4. 久泉共同墓地塔 (7) 5. 久泉共同墓地塔 (8)
 6. 光円寺塔 (9) 7. 光円寺塔 (12) 8. 光円寺塔 (14) 9. 光円寺塔 (15) 10. 庄南小学校西地藏堂内 (18)
 11. 新明共同墓地塔 (22) 12. 新明共同墓地塔 (23) 13. 専念寺塔 (24) 14. 祖泉神社東 (30) 15. 祖泉神社東 (31)



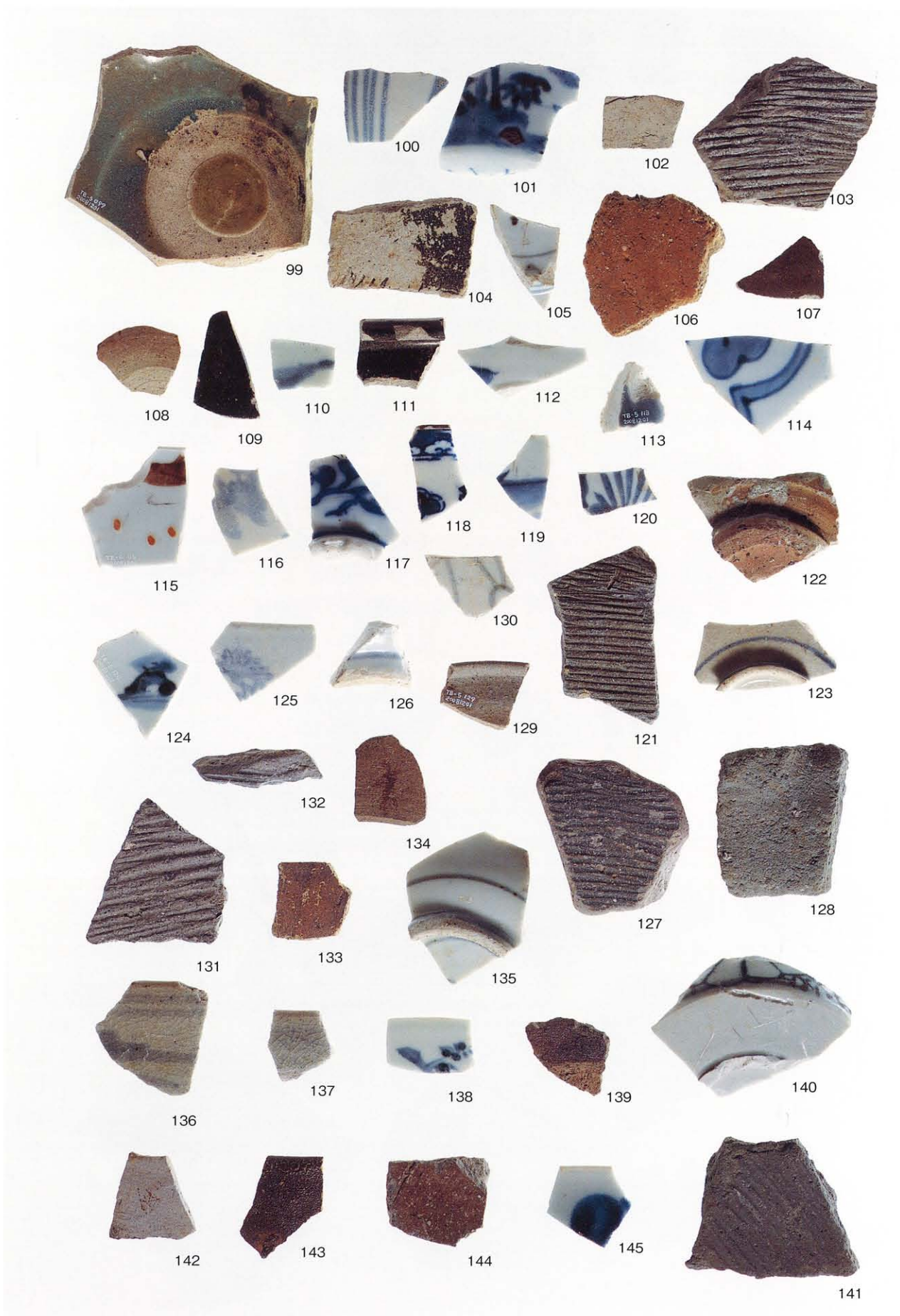
1. 太田共同墓地塔 (32) 2. 太田共同墓地塔 (33) 3. 太田共同墓地塔 (36) 4. 北村善藏宅北塔 (37) 5. 万福寺 (43)
 6. 万福寺 (44) 7. 万福寺 (47) 8. 万福寺 (48) 9. 万遊寺観音堂 (51) 10. 万遊寺観音堂 (52)
 11. 万遊寺観音堂 (53) 12. 万遊寺観音堂 (54) 13. 万遊寺塔 (55) 14. 万遊寺東観音堂塔 (57) 15. 柳瀬共同墓地塔 (60)

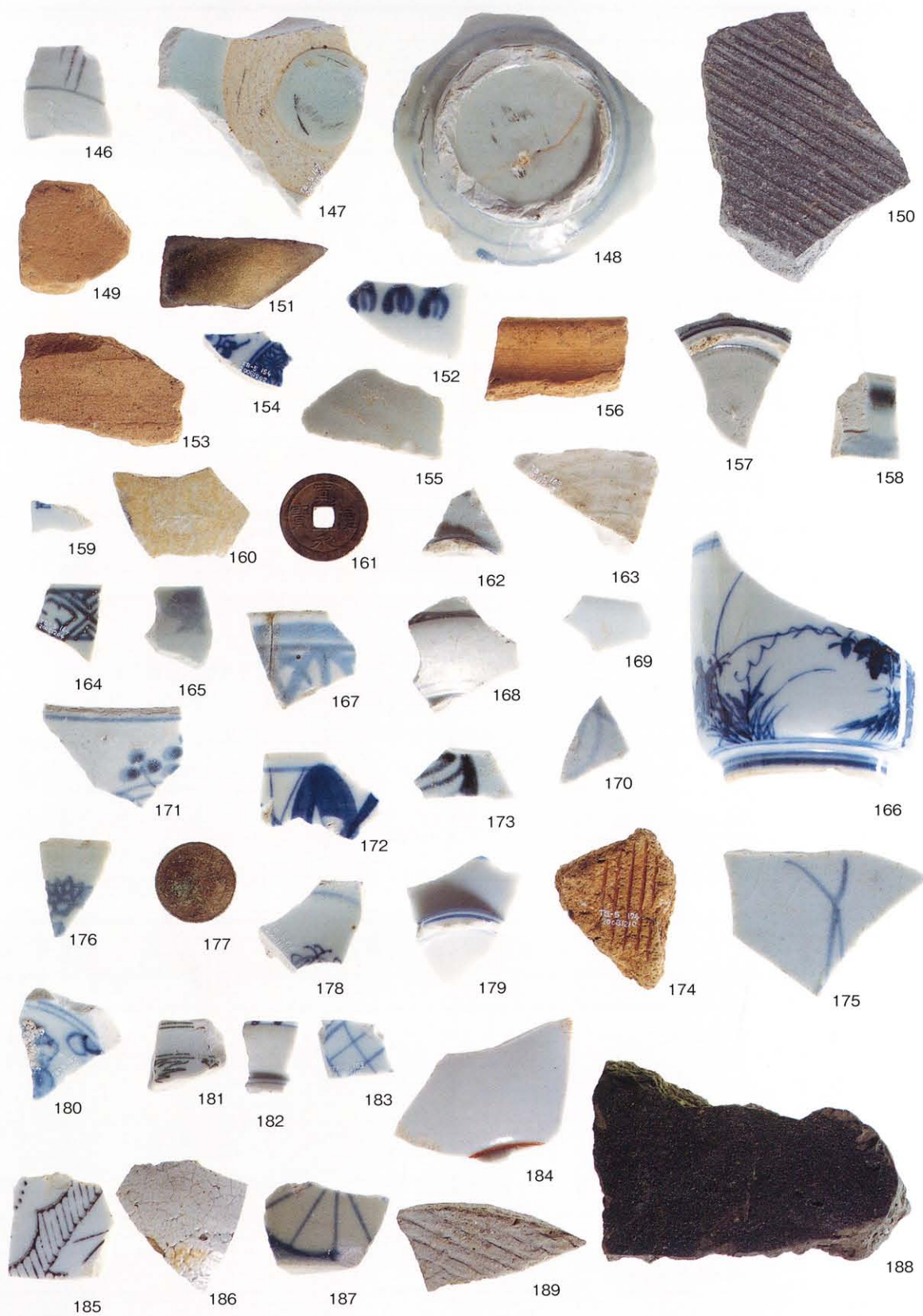
PL.6 遺物写真(1)





PL.8 遺物写真 (3)





報告書抄録

ふりがな	となみしいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく ご					
書名	砺波市遺跡詳細分布調査報告 5					
副題	柳瀬・太田・中野					
編著者名	野原大輔（砺波市教育委員会 文化財室）					
編集・発行機関	砺波市教育委員会					
所在地	〒 932-0393 富山県砺波市庄川町青島 401 番地 TEL0763-82-1918					
発行年月日	平成21年3月27日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 原 因
		市 町 村	遺 跡 番 号			
しな いせき	とやまけんとなみしやなげ、やなげしん、ひがしかいほつ、しょうなか、しもなかじょう、おおた、そいずみ、ひざいずみ、たけまさ、ごろうまるしん、あまのしん、はたのしん、なかのしん、なかの、なかので、しんみょう	162086	—	36度39分5秒	137度2分52秒	市内遺跡詳細分布調査事業
市内遺跡	富山県砺波市柳瀬、柳瀬新、東開発、庄中、下中条、太田、祖泉、久泉、竹正、五郎丸新、天野新、畑野新、中野新、中野、中野出、新明			調査面積	調査期間	
				—	2008.11.25 ～2008.12.12	
遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
市内遺跡	—	—	—	—		
下中条遺跡	古代散布地	古代	—	—		
柳瀬遺跡	古代散布地・中世散布地	古代・中世	—	—		
柳瀬久遠寺遺跡	古代散布地・中世散布地	古代・中世	—	—		
久泉大溝跡	古代溝跡	古代	—	—		
久泉遺跡	縄文散布地・古代官衙 中世集落・近世散布地	縄文・古代 中世・近世	—	—		
太田北遺跡	中世散布地	中世	—	—		
太田遺跡	古代散布地	古代	—	—		

DISTRIBUTION SURVEY REPORT OF THE TONAMI CITY Vol.5

— YANAZE · OTA · NAKANO —

Copyright © Tonami Prefectural Board of Education

401 Aoshima Shogawamati Tonami-City Toyama 932-0393,Japan

No parts of this publication may be reproduced or copied by any means
without prior permission of the copyright owner.

砺波市遺跡詳細分布調査報告 5

— 柳瀬・太田・中野 —

2009年3月27日発行

編 集 砺波市教育委員会

〒932-0393 富山県砺波市庄川町青島 401 番地

TEL (0763) 82-1918 FAX (0763) 82-3521

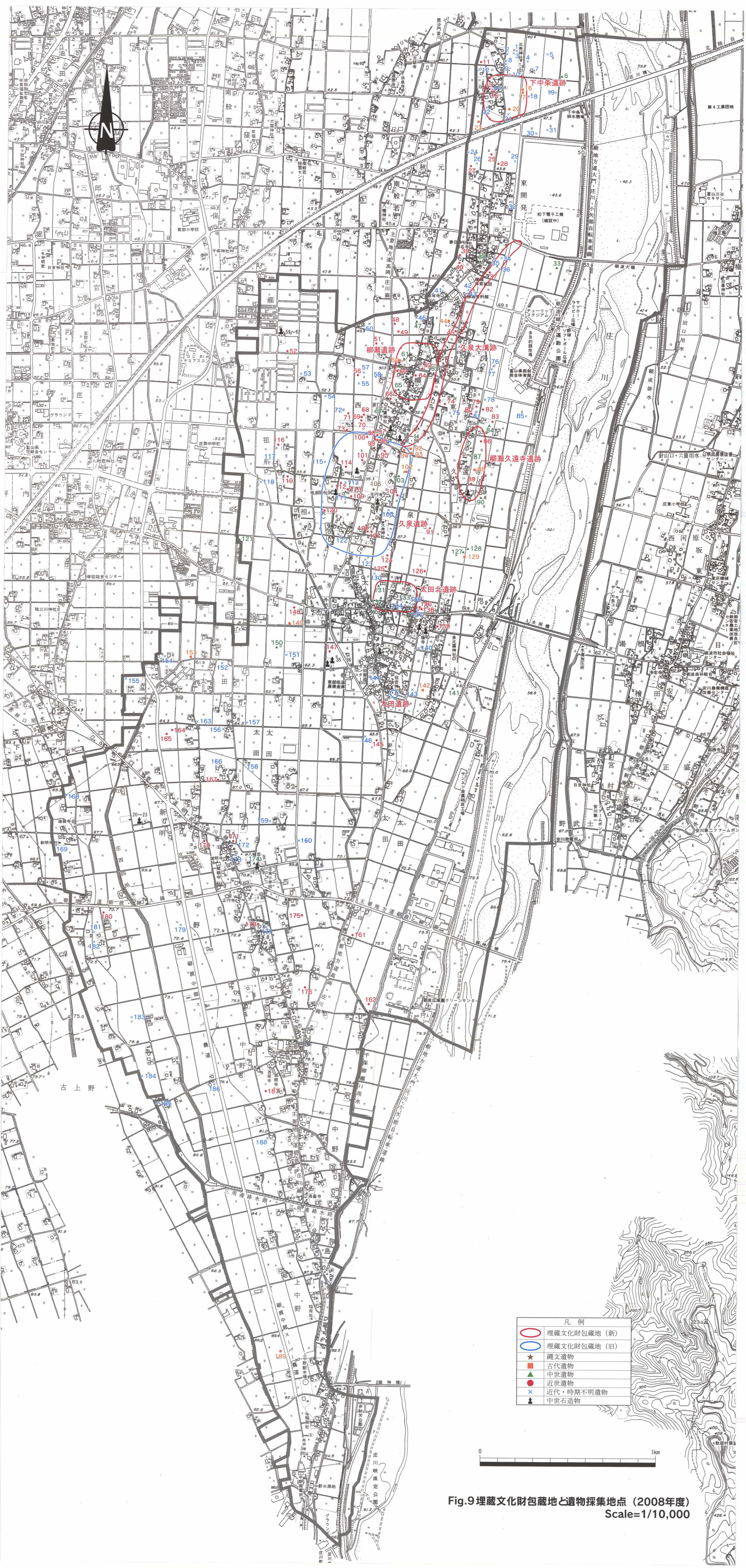
発 行 砺波市教育委員会

印 刷 株式会社チューエツ

〒939-1308 富山県砺波市三郎丸 45 番地

TEL (0763) 32-2021 FAX (0763) 32-2720

Printed in Japan



凡例

○	埋蔵文化財包蔵地 (新)
○	埋蔵文化財包蔵地 (旧)
★	縄文遺物
■	古代遺物
●	中世遺物
▲	近世遺物
×	近代・時期不明遺物
▲	中世石遺物



Fig.9埋蔵文化財包蔵地と遺物採集地点 (2008年度)
Scale=1/10,000

